

# 小牧連携だより



第37回 市民公開講座 乳腺外科 野田純代講師

## 連携ニュース

- 年末年始の救急外来診療の状況 . . . . . P 2
- 勉強会・委員会の開催予定 . . . . . P 2
- 第37回小牧市民病院市民公開講座 開催報告 . . . . . P 3
- 認定看護師・専門看護師 出前講座のご案内 . . . . . P 4
- ドラッグインフォメーション . . . . . P 6

## 受付時間

平日 午前8時30分～午後7時  
土曜 午前9時～午後0時

TEL 0568-76-1434  
FAX 0568-74-4516



キミと一緒に、育っていききたい。  
**Komaki**

■ 年末年始の救急外来診療の状況

当院の年末年始における救急外来受診状況について、昨年度と比較したところ、受診者数は大きく減少しました。あわせて、救急外来からの入院患者数についても前年を下回る結果となりました。

これらの状況から、当該期間における当院の救急医療体制は、全体として比較的落ち着いた推移であったと考えられます。

これらの背景には、地域医療機関の皆さまとの日頃からの連携や、適切な受診行動への理解が進んでいることも一つと考えております。

(期間：12月26日17時30分～1月5日8時30分)

年 度	入院・外来別		来院方法	
	救急外来患者数	うち入院患者数	ウォークイン	救急車等
令和7年度	717	140	499	217
令和6年度	1,256	176	1,013	243

■ 勉強会・委員会の開催予定

○ 緩和ケア系統講義

講座名：緩和ケア領域における不眠のマネジメント

講師：緩和ケア科医師 山中 裕貴 氏

日時：令和8年3月2日（月）～令和8年3月31日（火）

参加方法：Webによるオンデマンド配信

申込方法：事前申込が必要です。こちらのQRコードからお申し込みください。↑



○ 第38回地域医療支援委員会：

日時：令和8年4月23日（木）午後2時～午後3時

場所：小牧市民病院 講堂

### ■第37回小牧市民病院市民公開講座 開催報告

1月31日（土）小牧市中央図書館1階イベントスペースにて、市民公開講座を開催しました。

講師には、小牧市民病院乳腺外科 野田 純代部長医師による、「知ることから始めてみよう、乳がん～あなたらしい治療選択の第一歩」というテーマで講演しました。

当日は24名の市民の皆さまにご参加いただき、30代から70代まで幅広い年代の方が熱心に耳を傾けられました。

乳がん治療の最新の考え方や、患者さん一人ひとりにあわせた治療方法について、具体例を交えながらわかりやすく解説がおこなわれました。



アンケートでは、「最新の治療について具体的に知ることができた」「とても役に立った」といった声が多く寄せられ、参加者の半数以上から高い評価を受けました。今後も地域の皆さまが安心して医療を身近に感じていただけるよう、分かりやすい情報発信を続けてまいります。



■ 認定看護師・専門看護師 出前講座のご案内

つながる看護、広がる力。地域を育てる専門性



皆様のご施設で、各担当者より研修会の開催のご提案ができます



認知症に関すること

- ・ 認知症ケア・認知症評価の方法
- ・ せん妄ケア・パーソンセンタードケア

皮膚・排泄ケアに関すること

- ・ ストーマケア・スキンケア・排泄ケア
- ・ 褥瘡、創傷ケア ・ フットケア



感染に関すること

- ・ コロナウィルス、インフルエンザ、ノロウイルス胃腸炎の感染対策
- ・ 流行性疾患の感染対策、季節の感染対策 ・ 薬剤耐性菌対策
- ・ 適切な手洗い方法や手指消毒 ・ 環境整備



脳卒中、  
フィジカルアセスメントに関すること

- ・ 脳卒中症状 ・ 脳卒中発症、再発予防
- ・ 呼吸困難、動悸 ・ 腹痛、胸痛
- ・ 頭痛、意識障害

摂食・嚥下に関すること

- ・ 嚥下評価・リハビリ・食事の調整
- ・ 栄養剤、経管栄養物品 ・ 口腔ケア

がんに関すること

- ・ 意思決定支援・臨床倫理
- ・ 抗がん剤治療（治療、日常生活、感染予防、副作用）
- ・ 痛み（薬物療法、アセスメントとケア、レスキュー方法）



緩和ケアに関すること

- ・ 症状マネジメント  
（呼吸困難、せん妄など） ・ エンゼルケア
- ・ 看取りのケア



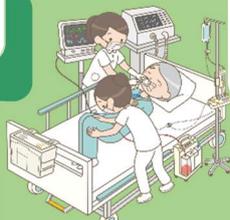
### 救急に関すること

- ・一次救命処置
- ・二次救命処置



### 手術に関すること

- ・周術期看護・術後合併症予防（静脈血栓、禁煙、早期離床、悪心嘔吐）
- ・手術本位（皮膚、神経損傷予防）・体温管理・ラテックスアレルギー



### クリティカルケアに関すること

- ・重症患者の看護（ABCDEバンドル）
- ・早期経腸栄養 ・集中治療後症候群
- ・重症患者の早期離床
- ・人工呼吸器患者の介護
- ・気管切開患者の看護

## 小牧市民病院に在籍している専門看護師・認定看護師

- ・がん専門看護師（3名）
- ・がん化学療法認定看護師（2名）
- ・がん性疼痛認定看護師（2名）
- ・緩和ケア認定看護師（3名）
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師（4名）
- ・救急看護認定看護師（1名）
- ・摂食嚥下障害認定看護師（1名）
- ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師（1名）
- ・感染管理認定看護師（4名）
- ・クリティカルケア認定看護師（1名）
- ・認知症看護認定看護師（1名）
- ・手術看護認定看護師（3名）



※2026年2月現在

研修会をご検討頂ける際は、下記連絡先にご連絡ください

連絡先：小牧市民病院 予約センター  
平日( 8:30~17:00 ) 0568-76-1434



### ■ ドラッグインフォメーション

製薬会社から、医薬品適正使用のお願いが通知されております。下記の内容に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

#### ○アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>の適正使用のお願い

アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>は、糖尿病治療のための週1回持効型溶解インスリンアナログ注射液です。2025年10月31日までの国内外でアウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>使用時に投与過誤が生じ、中には重大な低血糖に至った事例が報告されています。

- アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>は週1回投与で使用する医薬品ですが、本剤を誤って連日投与した結果、重篤な低血糖を発現した症例が報告されています。
- アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>の1クリック（1目盛）はインスリン10単位に相当しますが、1クリック（1目盛）が1単位に相当すると誤認識した結果、過量投与となり重篤な低血糖を発現した症例が報告されています。
- 他の週1回投与の糖尿病注射薬（単回使用のGLP-1受容体作動薬やGIP/GLP-1受容体作動薬）の使用経験のある方において、単位合わせダイアルの目盛を目視で確認せず、アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>のダイアルを最大単回投与量に設定し、過量投与した症例が報告されています。

#### 【医療従事者の方へのお願い】

下記の点について本剤を使用される方に十分に注意喚起をお願いいたします。  
特に**アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>の投与開始以前に連日投与の基礎インスリン製剤の使用経験がある方、他の週1回投与の糖尿病注射薬の使用経験のある方**には注意が必要です。

**アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>は、週1回投与の持効型溶解インスリンアナログ注射液です。連日投与した場合、低血糖が起こる可能性があります。**

**アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>の単位合わせダイアルの1クリック（1目盛）は10単位相当します。**正しいインスリン用量が投与されない場合、低血糖が起こる可能性があります。

**アウイクリ<sup>®</sup>注 フレックスタッチ<sup>®</sup>の投与量の設定方法は、他の週1回投与の糖尿病注射薬（GLP-1受容体作動薬やGIP/GLP-1受容体作動薬）の投与量の設定方法とは異なります**

過量投与や投薬過誤が生じないように、本剤のペン型注入器のダイアル表示の目盛を目視で確認し、処方された投与量である場合を除き、最大単回投与量（300単位又は700単位）を選択しないよう治療のサポートをお願いいたします。